

粟生線および鉄道全線の平成24年度実績等

神戸電鉄株式会社

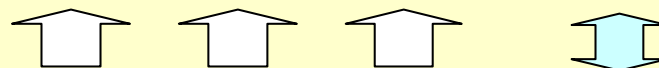
栗生線・全線における輸送人員の対前年増減率等

	平成18年度 (2006)	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)
栗生線・定期外	-3.6%	-2.5%	-2.7%
全線・定期外	-3.1%	0.8%	-1.9%
栗生線・定期	-1.9%	-4.2%	-1.6%
通勤	-1.8%	-2.6%	0.5%
通学	-2.1%	-6.2%	-4.2%
全線・定期	-1.2%	-2.5%	-0.4%
通勤	-0.9%	-1.6%	0.8%
通学	-1.8%	-4.0%	-2.5%
栗生線・合計	-2.5%	-3.6%	-2.0%
全線・合計	-1.9%	-1.3%	-0.9%

	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (4~5月)
栗生線・定期外	-6.2%	-0.6%	0.6%	-2.5%	-4.1%
全線・定期外	-4.4%	0.1%	-0.5%	-0.5%	-1.9%
栗生線・定期	-4.2%	-2.3%	0.0%	-2.1%	-6.4%
通勤	-3.2%	-2.8%	-3.1%	-2.4%	0.0%
通学	-5.5%	-1.6%	4.2%	-1.7%	-13.0%
全線・定期	-2.2%	-1.2%	-0.5%	-1.0%	-0.7%
通勤	-2.5%	-1.7%	-0.7%	-0.8%	0.2%
通学	-1.6%	-0.3%	-0.1%	-1.5%	-2.1%
栗生線・合計	-4.8%	-1.7%	0.2%	-2.2%	-5.7%
全線・合計	-3.0%	-0.7%	-0.5%	-0.8%	-1.1%

栗生線・輸送人員 (単位:万人/年)	771	743	729
-----------------------	-----	-----	-----

693	681	682	667	629
-----	-----	-----	-----	-----

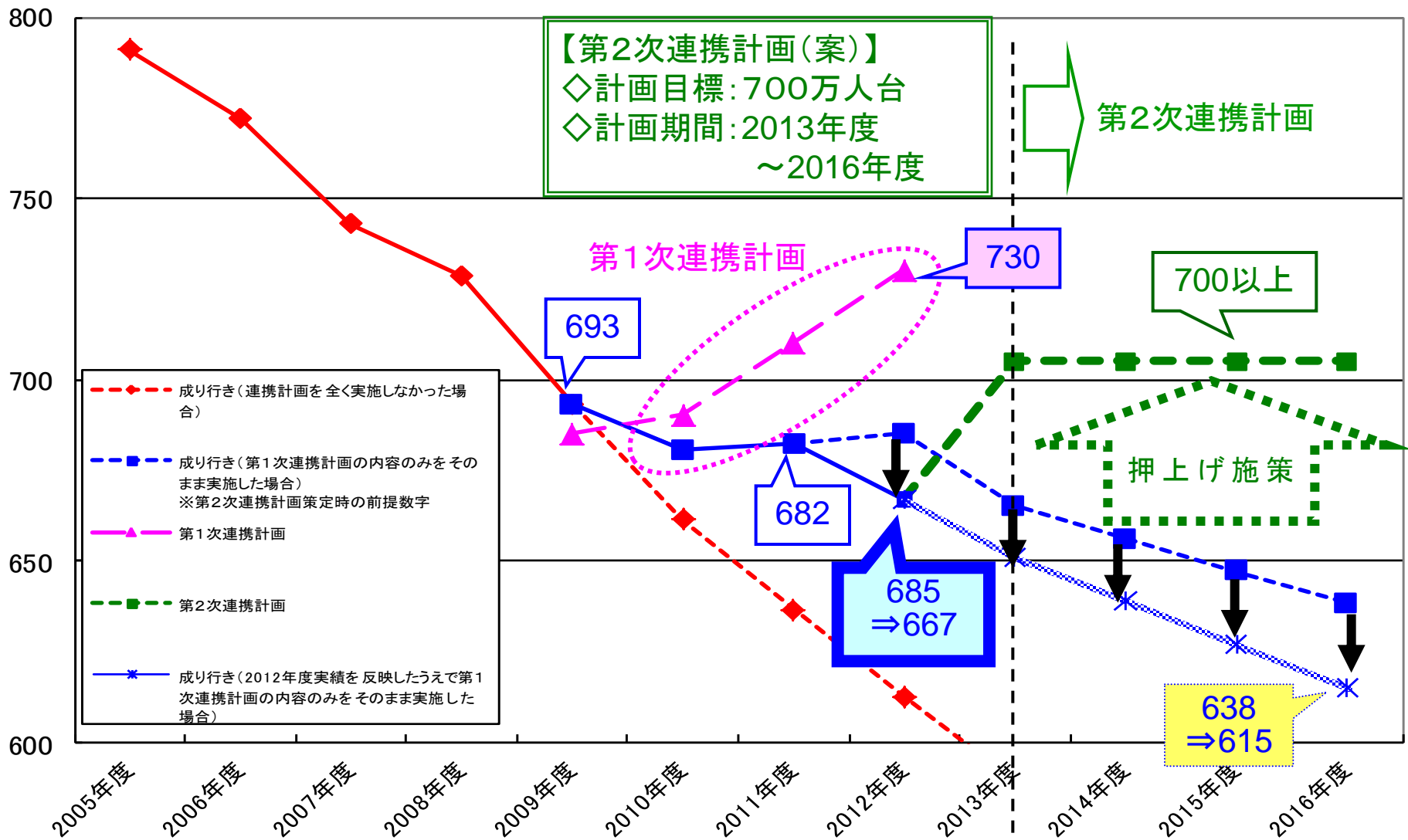


連携計画・目標輸送人員 (単位:万人/年)	685	690	710	730	700
--------------------------	-----	-----	-----	-----	-----

■ 栗生線活性化協議会による利用促進活動により、輸送人員の減少率は緩やかになりつつあったものの、昨夏より再び悪化する兆し。

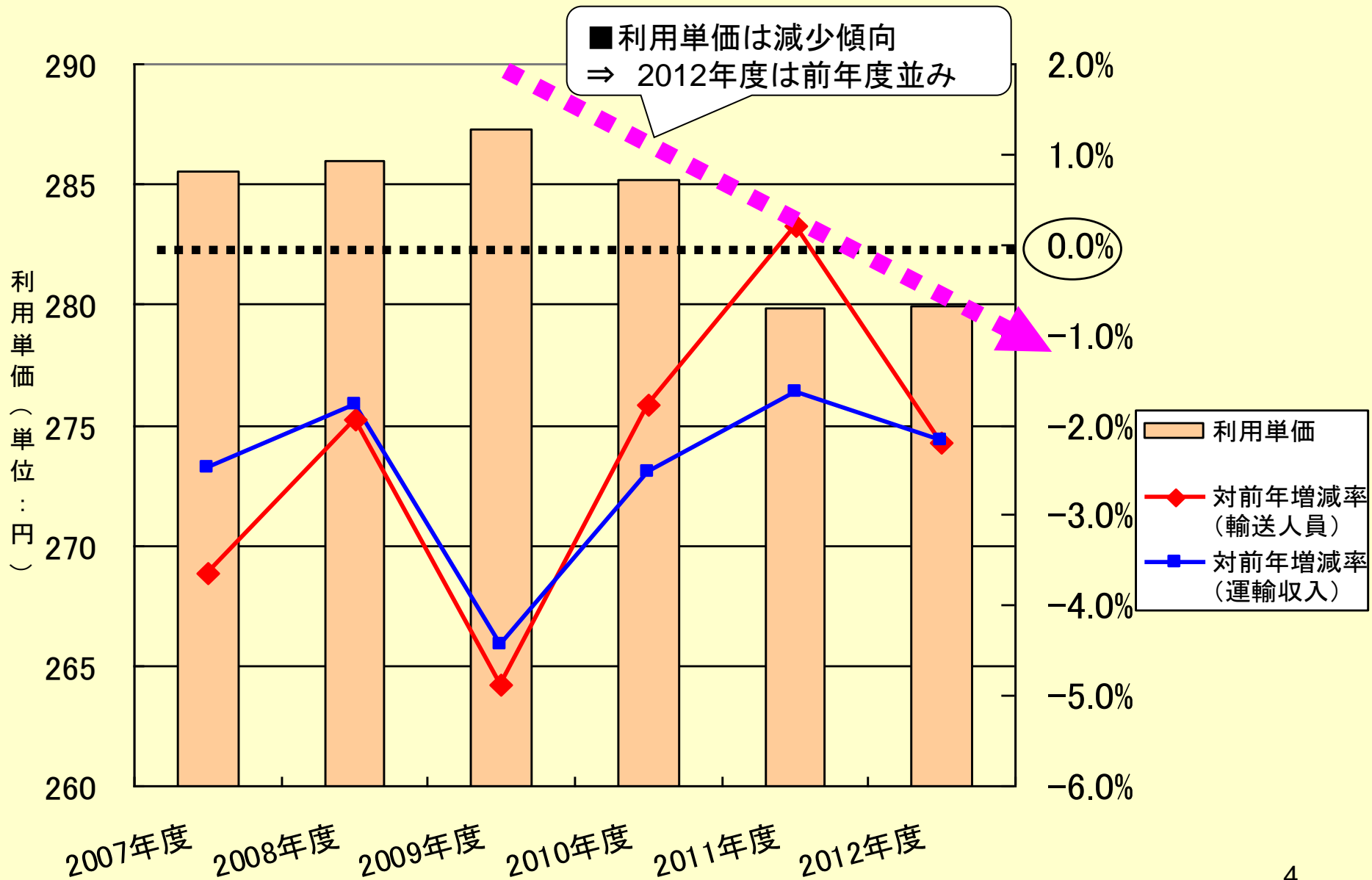
粟生線の今後の輸送人員と第2次連携計画目標等

輸送人員(単位:万人)

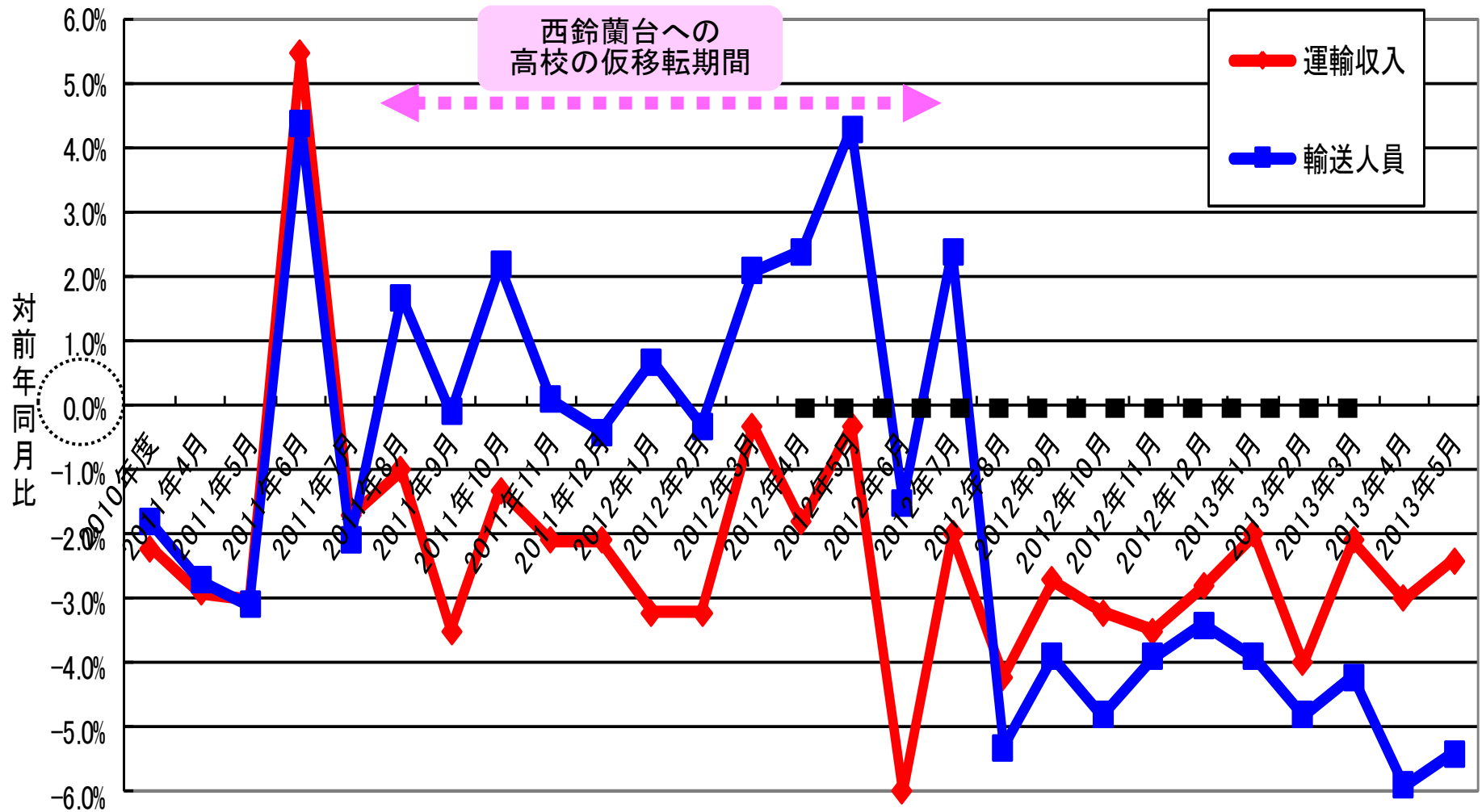


■ 第2次連携計画策定時の前提数字であった、2012年度: 685万人(予想)が、18万人減の667万人(実績)にとどまったことに伴って、2013年度以降の予想数字は下振れする見通し。

粟生線の利用単価等の直近推移



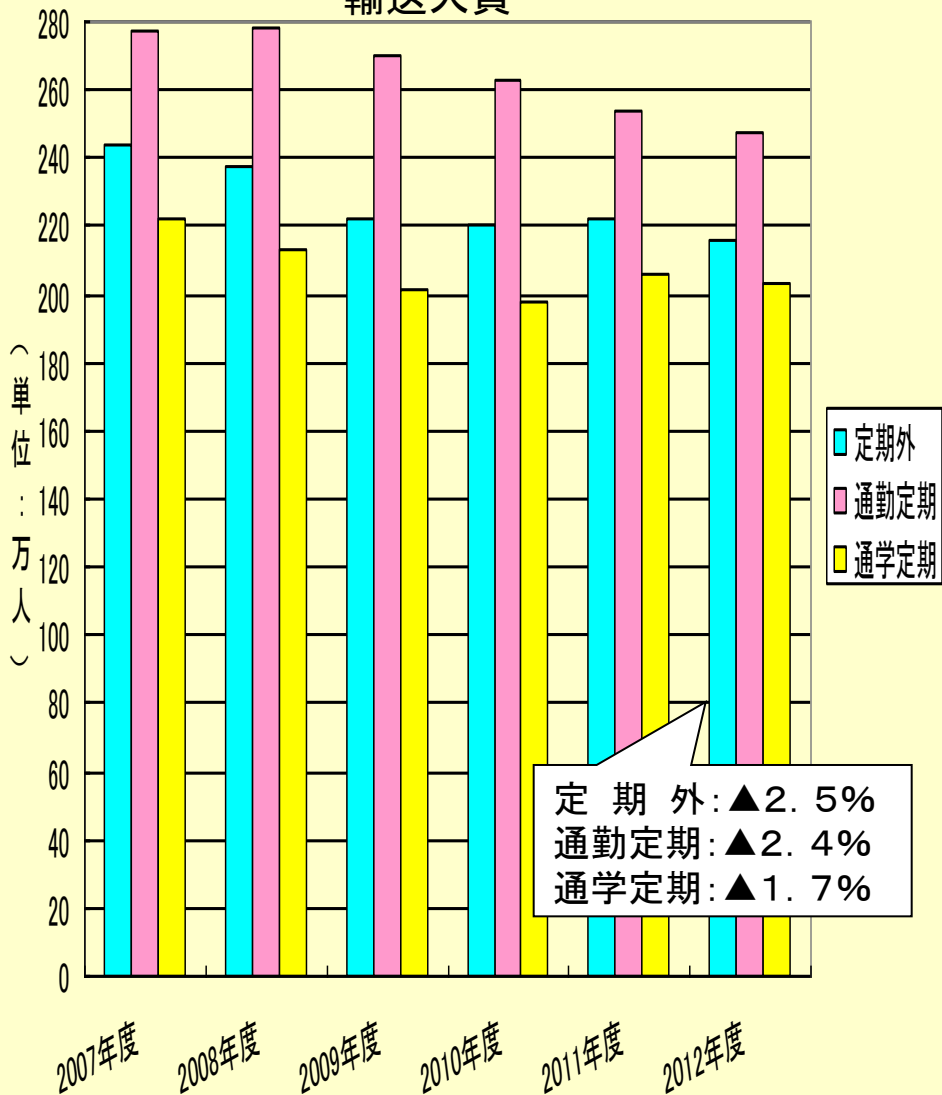
粟生線の輸送人員・運輸収入の対前年同月比(2010年度以降)



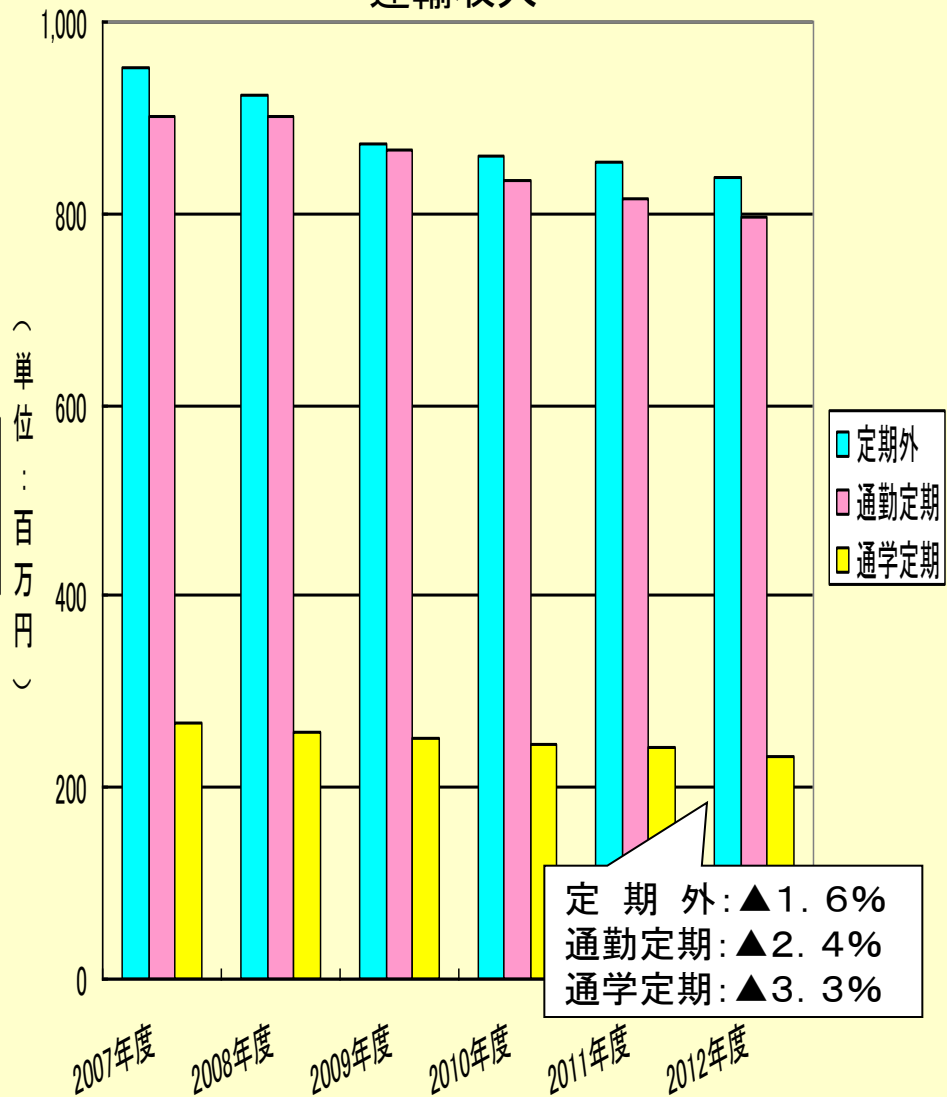
■ 西鈴蘭台への県立高校の仮移転が終了した2012年8月以降は、その反動減（今夏まで影響継続）もあって、**輸送人員は▲6%～▲4%の大幅減**で推移。
 ■ 一方、運輸収入は、利用単価は前年度並みだったものの、**年間を通じて減収傾向が継続し、昨夏以降は▲4%～▲2%の大幅減**で推移。

栗生線の券種別の輸送人員と運輸収入

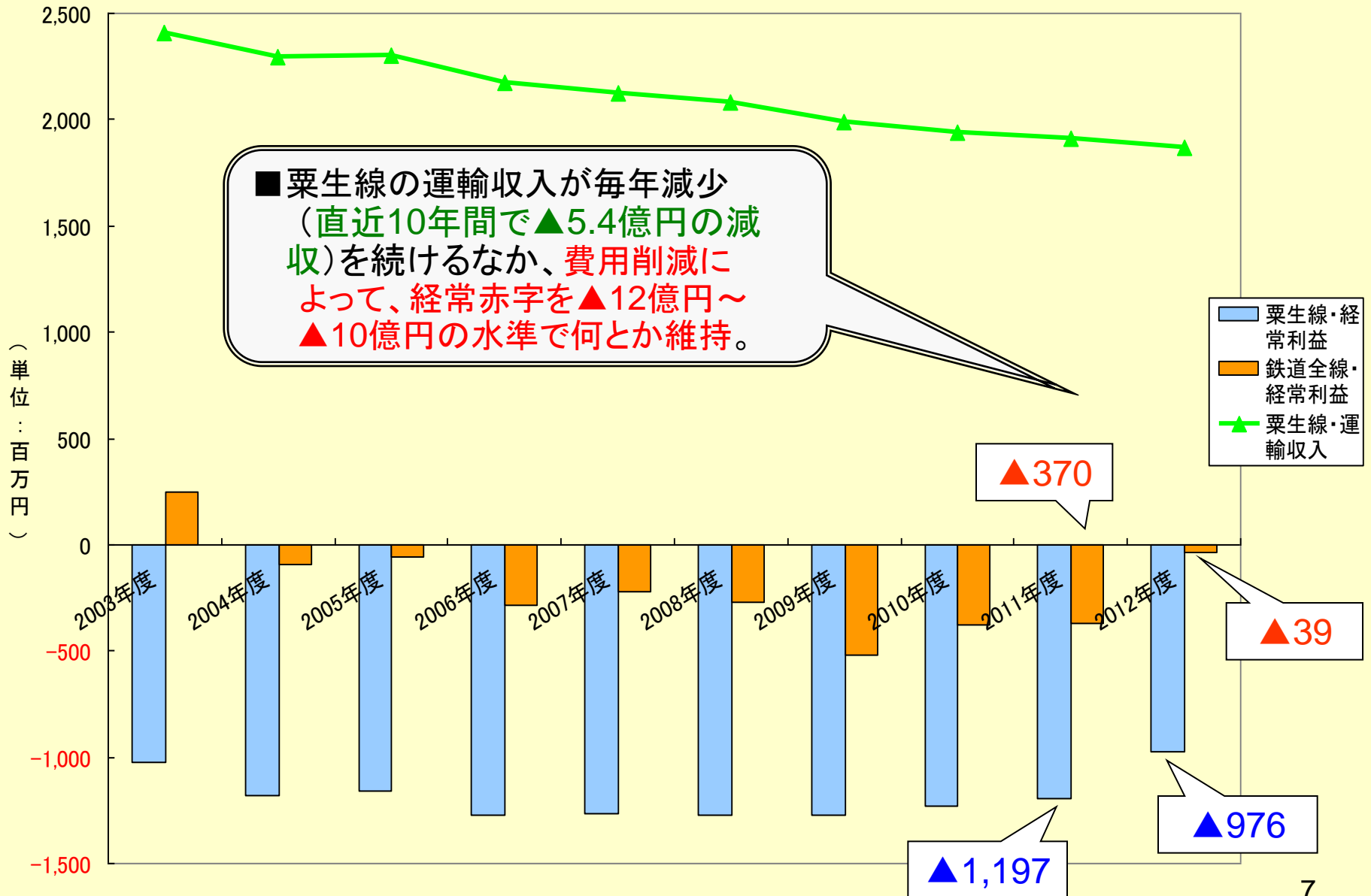
輸送人員



運輸収入



栗生線・鉄道全線(1種)の経常利益等の推移



粟生線の収支状況の評価等(2012年度)

- 『粟生線の維持・存続に向けた支援スキーム』にもとづき、コスト削減を主眼とした**自助努力策および自治体支援策を、計画通りに実施。**
- 上記により、**粟生線は約2.2億円の収支改善を実現したものの、未だ9.8億円の経常赤字を計上。**
- 輸送人員は667万人(△15万人)、運輸収入は18.7億円(△0.4億円)であり、利用の減少に歯止めがかからず。
 - ⇔ **このままの利用減少が続けば、自助努力策・自治体支援策による施策効果は次第に減殺。**
 - ⇔ **2013年度は、新たな費用増(電気料金値上げなど)により、再び、10億円超の経常赤字見通し。**
 - ⇒ **一層の利用促進・収入増が極めて重要!**